

教育学部

1. 「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)

教育学部は、多様なニーズのある社会、学校・保育施設等、子どもに応えることができる豊かな人間性と教育に関する専門的知識および実践力、指導力を持ち、「いい先生」とは何かを問い、生涯に渡り学び続け、社会や学校・保育施設等で活躍できる優れた教員・保育者になることを目的とします。

このために、卒業時点で学生が身につける資質・能力は、以下の3点とします。

1) 教員、保育者としての自己分析・自己研鑽の力

学びや実践を通して多様なニーズのある社会、学校・保育施設等、子どもに応えることができる専門的知識および実践力、指導力を身に付け、「いい先生」とは何かを常に問い続け、自己の実践を振り返り、自己を高めていくことができる。

2) 教員、保育者としてふさわしい豊かな人間性

多様な立場、考え方の存在を認め、「いい先生」となるという強い意志と情熱および教員、保育者としての使命感や責任感を持ち、子どもの多様なニーズを共感的に理解し、課題の解決に他者と協働して取り組むことができる。

3) 変化する社会、学校・保育施設等で活躍できる力

学びや実践を通して多様なニーズのある社会、学校・保育施設等、子どもを的確に理解し、専門的知識および実践力、指導力を基に協働して課題の解決や改革に取り組み、実現することができる。

2. 「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)

(1) 教育課程の編成、教育内容

教育学部は、教員、保育者として必要な専門的知識および実践力、指導力を身に付けることを目指して多様な進路に応じた小学校教育、幼児教育保育、英語教育・小学校、保健教育の4つのコースを設定し、『教職一般領域』『初等教育領域』『学科共通領域』に加え、『専修領域』において基礎から応用までの段階を考慮した多様な授業科目を配置します。また、多様なニーズのある社会、学校・保育施設等、子どもに応えることができるよう『子ども教育領域』や『子ども理解領域』を設けています。さらに学校インターンシップなどの4年間を見通した実践的な学びの場を多く設定します。

- 1) 『教職一般領域』では、教員・保育者に必須である教育学の基礎理論や実践論等を学ぶため、「教育原論」「教育心理学」「教育課程総論(小・中・高・養)」「教育方法・技術(情報通信技術の活用含む幼小中高養)」などの科目を配置します。
- 2) 『初等教育領域』では、教科教育に関する基礎理論や実践論等を学ぶため、各教科の「教科内容論」「初等教育法」などの科目を配置します。
- 3) 『学科共通領域』では、学校現場・保育現場と大学での学びとを関連させながら、豊かな人間性と実践力、指導力を培うため、「教育基礎演習Ⅰ・Ⅱ」「インターンシップⅠ～Ⅲ」などの科目を配置します。また、1年次の「大学基礎演習Ⅰ・Ⅱ」、2年次の「教育基礎演習Ⅰ・Ⅱ」を土台に、3年次からの「教育専門演習Ⅰ・Ⅱ」と「教育専門研究Ⅰ・Ⅱ」では2年間継続して同じゼミ教員のもとで「卒業研究」に取り組みます。
- 4) 『専修領域』では、1年次に、これまでの学びをほぐし、とらえ直すため、「数理探究の扉」「英語探究の扉」「パフォーマンス演習」などの科目を配置します。その後、専門的な理論と実践論等を学ぶため、小学校教育コースでは、特別支援教育、幼児教育、英語教育、数学教育の4つのプログラムに応じた多様な科目を、幼児教育保育コース、英語教育・小学校コース、保健教育コースでは、それぞれの進路に応じた多様な科目を配置します。
- 5) 『子ども教育領域』では、これまでの学びや実践を通じた疑問や課題を解決し、学びを深めるため、「教科内容探究」や各教科の「初等教育演習」などの科目を配置します。また、各々の進路実現をより確実にするため、「教科内容研究Ⅰ～Ⅲ」「教科総合演習Ⅰ・Ⅱ」などの科目を配置します。
- 6) 『子ども理解領域』では、変化する社会、学校・保育施設等、子どもの理解を深めるため、「多様な子ども理解入門」「子ども発達環境論」「子ども企業研究」などの科目を配置します。

(2) 教育方法

- 1) 主体的・対話的で深い学びを実現するため、授業では、講話のみならずグループワーク等を取り入れ、課題追求に向けたディスカッション、グループ発表を行うなど、双方向的な授業を展開します。
- 2) 情報化の進展に対応するため、ICTアクティブ・ラーニング教室、ICT模擬授業教室、電子黒板、タブレット、インターネットや視聴覚機器等の活用を図ったり、実践力の育成に向け模擬授業・模擬保育(ビデオによる収録も実施)を行ったりして、学修方法の改善に努めます。
- 3) 最新の教育現場等の情報の把握、小学校・中学校・幼稚園・保育所等での教員・保育者の役割等の理解を図るため、「大学基礎演習」や「教育基礎演習」を中心に、本学卒業生の現任教員・保育者などを招聘し、講習会やセミナーを実施します。
- 4) 実践的な学びを推進するため、3年次の教育実習に加え、1年次に「大学基礎演習」で「ハロースクール」、2年次に「インターンシップ」などを実施し、小学校・中学校・幼稚園・保育所等での教育活動に積極的に参加します。

(3) 学修成果の評価方法

- 1) 教育課程における学修の成果は、別に定めるアセスメント・ポリシーをもとに評価します。
- 2) 定期試験、小テスト、課題レポート等の提出、授業への参加態度や意欲、学生による授業評価等により、授業目標への到達度を総合的に評価します。
- 3) 評価観点とレベルを示したルーブリックの活用を図るとともに、学修や課題追求の過程をパフォーマンス評価します。
- 4) 授業・教育実習(幼・小・中)・保育実習・介護等の体験などの課題活動を通して、教員・保育者として必要な資質・能力や適性を評価します。
- 5) 学修ポートフォリオ(目標・自己評価、履修カルテ等)および上記2)～4)等をもとに、担任教員との面談(振り返り等)等を通して自己省察を促すとともに、次の目標設定や学修方法の改善等を図ります。

3. 「入学者受入れの方針」(アドミッション・ポリシー)

教育学部は、「卒業認定・学位授与の方針」(ディプロマ・ポリシー)、「教育課程編成・実施の方針」(カリキュラム・ポリシー)に定める教育を受けるための条件として、具体的には次のような資質・能力、目的意識をもった人物を求めます。

1) 「いい先生」になるという強い意志と情熱を持って専門的に学びながら「いい先生」とは、と問い続け、子どもの多様なニーズを共感的に理解しつつ一人ひとりに応じた支援やケアを考えようとするができること。

〔求める要素：関心・意欲・態度〕

2) 本学の専門分野を学ぶために、高等学校等で習得すべき基礎学力を有し、教育についての学びや実践を、子どもの成長や育ちを考え、広い視野から現代の教育課題を捉えながら、教育活動にいかしていこうとすることができること。

〔求める要素：知識・技能、思考力・判断力、表現力〕

3) 他者や社会との対話を通して自己の考えを表現し、豊かな人間関係を築きながら協働しようとし、探究心と洞察力を持ち、新しい課題にも果敢に挑戦し、実践力、指導力を身に付けようとするができること。

〔求める要素：主体性・多様性・協働性〕